

原子力安全検証委員からいただいた
ご意見を踏まえた取組状況について

2020年6月3日

関西電力株式会社

- 第19回原子力安全検証委員会（2019年11月29日）までに頂いたご意見のうち、「意見A」に整理している以下の項目について、その取組状況について取りまとめを実施。

<参考>
 意見A：ご意見を踏まえ新たに**取組方針を策定**するとともに、**取組状況を検証委員会でフォロー**していくもの
 意見B：ご意見に対する当社の考えや取組状況について、**委員に対して説明**したうえで、**意見Aか意見Cを判断**するもの
 意見C：ご意見の趣旨に沿って既に取り組んでいるが、**社内で共有し、当社活動を進める**うえで**留意**するもの

ご意見の概要	検討段階※	実施段階
①労働災害を踏まえた今後の取組み		○
②労働災害の再発防止対策の重点化	○	

➡ 2

➡ 3

※「検討段階」のご意見については、次回以降の検証委員会において、引き続きフォローしていく。

ご意見	取組方針
<p>①労働災害を踏まえた今後の取組み</p> <p>リスクマネジメントの取組みの一環として、労働災害の撲滅に向けて様々な取組みを行っているが、結果が出ていないのはどこかに問題があるということ。ポイントを基本動作が遵守できていないことに帰着させているが、技術的な分析が不十分。今回の事故は決して予見できなかったものでなく、リスクアセスメントや現場でのリスクの共有ができていなかったのではないかな。</p> <p>第19回検証委員会(2019.11.29)</p>	<p>【取組方針】</p> <p>当社もリスクアセスメントが十分ではなかったと反省し、重傷災害に至った工事のリスクアセスメント結果を確認したところ、労働者の作業方法や注意力に頼ったものが多く見受けられました。そのため、</p> <ul style="list-style-type: none">・リスクアセスメントで抽出したリスクへの低減措置については、危険源の除去や機械・設備側での対策等の抜本的にリスクを排除もしくは低減する方策から優先的に、漏れのないように検討するよう、検討順位（※）を社内規程に明文化・想定されるリスク低減措置を講じても、作業環境面や設備構造面等でリスクが残留する作業現場では、作業前のTBMやKY等を通じて作業員一人ひとりまで、残留リスクを明示し、安全に作業を行うための注意事項を周知徹底するとともに、基本動作やリスクを回避する行動を遵守する環境を整備してまいります。 <p>また、重大災害撲滅の観点から、土木建築工事における重大災害に繋がるリスクを抱える作業を対象とした「当社・元請・協力会社の3者合同によるリスクアセスメント」の実施について検討を進めてまいります。</p> <p>（※）検討する順位は以下の通り。 1：危険源の除去等の対策 2：機械・設備への対策等 3：教育訓練、注意喚起等の管理面の対策 4：個人用防護具の使用</p> <p>【所管部門：原子力事業本部】</p>

本日、ご確認いただきたい箇所

<p>取組状況</p>	<p>リスクアセスメントや現場でのリスク共有の充実を図るため、取組方針としてお示しました「リスク低減措置にあたっての検討順位を社内規程に明文化」、「作業前TBM-KYにおける残留リスクや注意事項の周知徹底」、「土木工事における重大リスクを抱える作業への3者合同リスクアセスメントの実施」の対応を実施しております。</p> <p>しかし、2020年3月に死亡災害が発生したことを受け、これまでの各種取組みの分析（取組みが不足していたのか、取組みを確実に実施出来ていれば防げたのか）を行いました。分析の結果、労災撲滅アクションプラン等の取組みに効果はあったものの、土木工事元請会社間において、「過去発生した重大災害の教訓を活かしていない」等、安全に関する取組み状況に濃淡が確認されたことから、発注者の立場として元請会社の安全活動に関する関与に不足があったのではないかな等の観点で、労働安全コンサルタントによるパトロールの強化や、安全取組に関する継続的なコミュニケーションの実施など、一部土建元請会社に重点を置いた、発注者としての監視に関する取組強化を図り、重大災害撲滅に向けて展開してまいります。</p>
-------------	--

ご意見	取組方針
<p>①労働災害の再発防止対策の重点化</p> <p>重大な労働災害が発生しているので様々な対策を取っている。あわせて、非常に多忙感があるという現場の悩みが伝わってきた。いかに現場が安全文化を保って取組めるかを考えると、再発防止対策の取組みを最適化する必要があるのではないか。そのために再発防止対策で発見した問題の安全上の重要度、影響度、対策の効果の分析をやるべきではないか。その上で効果的な対策に重点化してしっかり取組むという再発防止対策全体を最適化する。そうやって、問題を同時に解決する方法を探っていかなければいけない。</p> <p style="text-align: right;">第16回検証委員会(2018.6.1)</p>	<p>【取組方針】</p> <p>現在、各種工事が最盛期を迎えているとともに、新たに労災も発生している中、対策の抜け・漏れがなく、また、作業員の安全に対する意識面や緊張感の持続にも配慮しながら、労働災害防止対策の充実に取り組んでいます。これら労働災害やその対策を踏まえ、施策の取捨選択を伴う労災対策の重点化は、土木工事が落ち着いたタイミングで実施すべく、具体的な内容について検討を進めてまいります。</p> <p style="text-align: right;">【所管部門：原子力事業本部】</p>
<p>労働安全は人命などと同じリスク概念として上位にあるものだから、安全対策の中に外せない施策もあると考える。効果が低いとして止めると、土台が崩れてしまう項目があるような気がする。座標軸をもう一つ加えるのは難しいかもしれないが、安全を支える基本的な施策は外して、見直すほうが良いと思う。また、協力会社にも丁寧に説明し、理解を得る必要がある。</p> <p style="text-align: right;">第18回検証委員会(2019.6.5)</p>	<p>【取組方針】</p> <p>土木工事が落ち着いたタイミングで実施する労災対策の重点化については、安易に効果が低いなどの理由によって取りやめなどを検討するのではなく、関西電力（発注者）として、労働災害防止に向け持っておくべき視点（安全意識の醸成や教育研修、安全行動の徹底などの観点）も加味しながら、直近の労働災害の発生状況も踏まえ検討してまいります。</p> <p>なお、重点化後の安全健康活動計画については、重点箇所や変更箇所などについて協力会社へ丁寧に説明してまいります。</p> <p style="text-align: right;">【所管部門：原子力事業本部】</p>

本日、ご確認いただきたい箇所

<p>取組状況</p>	<p>各種工事が最盛期を迎えているとともに、新たに労災も発生している中、対策の抜け・漏れがなく、また、作業員の安全に対する意識面や緊張感の持続にも配慮しながら、労働災害防止対策の充実に取り組んでおります。</p> <p>これら労働災害やその対策を踏まえ、施策の取捨選択を伴う労災対策の重点化については、上記方針に従い、土木工事が落ち着いたタイミングで実施すべく、具体的な内容について検討を進めてまいります。</p> <p>なお、2019年度については、死亡災害を含む土木工事における重大災害が複数発生したことを踏まえ、土木工事に対する取組みの強化が必要であると認識しております。については、活動項目を屋上屋に増やすことなく、土木工事における重大リスクを抱える作業に焦点を当てた取組み（安全技術アドバイザーパトロール・3者合同リスクアセスメントなど）を行い、2020年度の安全活動を展開してまいります。</p>
-------------	--